



生きて、生きて、生きろ。

日時 2025年 **9月28日(日)**

**参加
無料**

午後13時開場

13時半～15時45分

申し込みは↓

16時より岡精社協加盟事業所は総会を開催します。



場所

岡山県立図書館 デジタル情報シアター

定員82名 定員になり次第締め切らせていただきます

生きて、 生きて、 生きろ。

喪失と絶望の中で生きる人々と
ともに生きる医療従事者たちの記録



震災と原発事故から13年、
福島で『こころの病』が多発していた

【主催】岡山県精神障害者社会福祉事業所協議会

【後援】岡山県精神科病院協会・岡山県精神保健福祉士協会



自分を責めないで・・・



頑張れって言ったって、
何を頑張ればいいのか？



喪失と絶望の中で生きる人々・・・それに向き合う医療従事者たちのリアル・・・

「人間もつと泣かなきゃだめだと思う」
震災と原発事故から13年。福島では、
時間を経てから発症する遅発性PTSDなど、こころの病が多発していた。
若者の自殺率や児童虐待も増加。メンタルクリニックの院長、塚本亮二医師は、
連日、多くの患者たちと向き合い、その声に耳を傾ける。連携するNPOこころのケアセンターの米倉一磨さんも、こころの不調を訴える利用者たちの自宅訪問を重ねるなど日々、奔走していた。
津波で夫が行方不明のままの女性、原発事故で避難中に息子を自死で失い自殺未遂を繰り返す男性、避難生活が長引く中、妻が認知症になった夫婦など、患者や利用者たちのおかれた状況には震災と原発事故の影響が色濃くにじむ。
かつて沖縄で沖縄戦の遅発性PTSDを診ていた塚本医師は、福島でも今後、同じケースが増えていくのではと考えていた。
ある日、枕元に行方不明の夫が現れたと話す女性。「生きていていいんだ」という希望を持った時には泣ける」と塚本さんは話す。米倉さんは、息子を失った男性にジグザグを一緒に焼くことを提案。やがてそれぞれの人々に小さな変化が訪れていく。
喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー。



10/10は 世界メンタルヘルスデー

世界メンタルヘルスデーは、メンタルヘルス問題に関する世間の意識や関心を高め、偏見や社会的スティグマを無くし、正しい知識を普及するために定められた国際デー。

